

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 7 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20402043

研究課題名（和文） 北欧4カ国における高齢者介護システムの多様性とその要因に関する比較分析研究

研究課題名（英文） Comparative study of elderly care among the Nordic countries

研究代表者

山井（斉藤） 弥生（YAMANOI (SAITO) YAYOI）

大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授

研究者番号：40263347

研究成果の概要（和文）：本研究の目的はスウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランドの北欧4カ国を研究調査対象とし、北欧諸国の中でも介護に多様性に富んでいることを明らかにすることであった。同時に、各国の文化と歴史、政治動向の視点から、その要因を比較分析することを試みた。5年間にわたり、各地でフィールド調査を行い、現地の研究者との議論をする中で、市場化の度合い、サービス供給者の特徴などに違いが見られ、その要因は政治に影響される部分が多いことが明らかとなった。介護は介護を必要とする人の生活を支えるものであり、当然のことながら地域特性や歴史文化の影響もあることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：This research project had two purposes. One of them is to clear variation of elderly care even among the Nordic countries (Sweden, Denmark, Norway and Finland). Another is to analyze reasons of the variation with perspective of culture, history and politics.

This research project makes it clear that many similarities and differences of elderly care in the Nordic countries. For example, idea of marketization and privatization has established in these countries. It goes rapidly in Stockholm in Sweden and it goes slowly in Norway. It depends on policy of the government and their culture, because it is true that care service is to support elderly who live there.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2011年度	1,700,000	510,000	2,210,000
総計	11,700,000	3,510,000	15,210,000

研究分野：社会福祉学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、高齢者介護、国際比較

1. 研究開始当初の背景

北欧型福祉国家レジームに属するスウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランドは、他国に比べて、大きな社会保障給付と普遍的な給付が共通の特徴とされ、同一の社会保障システムを持っているかのように

議論されることが多い。しかし福祉の現場からみると、北欧諸国の福祉サービスは異なっている部分も多く、またその相違点はそれぞれの国の文化や政治状況によるものと考えられる。北欧における介護研究の第一人者である Marta Szebehely 氏（本研究の海外研究協

力者)が監修した報告書「北欧における高齢者介護研究—研究の全容」(*Aldreomsorgsforskning i Norden – En kunskaps- översikt*)によれば、公的な介護サービスに関する研究は数多く、統計でみると介護付き住宅への入居率(65歳以上)はデンマークで約3割、スウェーデンで1割弱という違いがある。また市場化の状況はNPMの考え方を最も早く取り入れたのはスウェーデンであるが、バウチャー制度の全国展開に向けた法律を最も早く取り入れたのはデンマークであり、最もゆっくりと市場化が進行しているのはノルウェーである。その一方で、家族の介護負担や市民セクターの役割についての調査研究は北欧諸国内ではその数が少ない点が指摘されている。介護サービスが高齢者の生活を支えるサービスである以上、その国や地域の文化や住む人たちの生活スタイルが影響しているはずであり、決して介護サービスは一つではない。日本における北欧の介護研究においても、北欧の人たちの生活や文化を踏まえた介護システムの比較研究を検討することが必要である。

2. 研究の目的

本研究の目的はスウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランドの北欧4カ国を研究調査対象とし、現地研究者の協力を得て、各国の高齢者介護システムの多様性を明らかにすることである。また1)各国の文化と歴史、2)政治動向、3)介護政策の視点から、その多様性の要因を比較分析することであった。

また従来の研究では、研究者が国を分担して調査を行う研究が多かったが、今回の調査では、各研究者がこれまでに研究してきた国に加えて、北欧諸国内の他国を見ることでより横断的な比較を行うことを目指した。

3. 研究の方法

本研究は「海外学術研究」という性質上、海外研究協力者の協力を得て、海外現地調査として現地の研究者、自治体の関係部署や介護施設等の担当者へのヒアリング調査を中心に実施してきた。また国際比較を行うため、日本国内での介護職員に対するアンケート調査を予備調査として実施した。また最終年度ではイギリスの研究者を訪問し、今後の研究をさらなる展開を検討した。以下、年度ごとに整理する。

1) 2008年度: 2か月に1回の定期研究会を行い、研究者間での意見交換と研究計画の確認を行った。海外現地調査では、斉藤と石黒はオスロとスベンボーにて介護施設と自治体において介護システムのヒアリング調査を実施した。田邊はコペンハーゲン、オスロにて、家族と文化に関する資料収集を行い、岡沢、久塚もそれぞれの分担研究において資

料収集およびフィールド調査を実施した。

2) 2009年度: 2か月の1回の定期研究会を行い、研究の進捗状況を確認し、現地調査の計画を立て、また学会発表の準備を行った。

海外現地調査では斉藤、石黒、田邊は9月にトロムソ市役所、トロムソ大学、ナルヴィーク市役所、ロフォーテン諸島を訪問し、ノルウェー北部の小規模自治体における介護政策に関するヒアリング調査を実施した。

11月には安倍オースタッド玲子氏(オスロ大学教授/海外研究協力者)、12月にはMarta Szebehely氏(ストックホルム大学教授/海外研究協力者)、1月には山田真知子氏(元・北翔学園教授、在フィンランド/海外研究協力者)を招へいし、各国の介護および家族政策に関する最新情報の提供を受け、各国の研究内容を深めた。

3) 2010年度: 年3回の研究会を実施し、これまでの調査結果の整理と進捗状況の確認を行った。海外現地調査では、斉藤、石黒はInternational conference at the Danish national Center for Social Research (SFI), Copenhagen, 21-23 June 2010に参加し、海外研究協力者Marta Szebehely氏(ストックホルム大学教授)、Karen Christen氏(ベルゲン大学教授)の報告を聞き、また北欧諸国の介護研究者らとの研究交流を深め、情報収集を行った。さらに斉藤は8月にヴェクショーに滞在し、介護システムの現地調査を行い、海外研究協力者Christina Siwertsson氏(ヴェクショー大学教授)と研究会を持った。斉藤と田邊は9月にヘルシンキで海外研究協力者の山田真知子氏と現地ヒアリング、サンクトペテルブルグでOlga Borodkina氏(サンクトペテルブルグ大学教授)に介護システムの国際比較に関するヒアリング調査を行い、ビュボルグ(ロシア・カレリア地方の旧フィンランド領)で史跡を訪問し資料収集を行った。

日本国内では大阪府内の介護事業者の協力を得て、「ホームヘルプの国際比較調査」の実施に向けた予備調査を実施した。質問紙はSzebehely氏らが2005年に実施したNord Care調査に使用したものを日本版にアレンジして用いた。

4) 2011年度: 本研究の最終年度であったが、研究代表者の斉藤が日本学術振興会による2国間学術交流の派遣事業により、2011年9月~2012年6月までストックホルム大学社会福祉学部にて客員研究員として滞在することになったため、本研究の終了年度を1年延期した。海外研究協力者Marta Szebehely教授のもとで研究ができる環境を得ることができ、介護政策の比較研究でより高いレベルの研究成果が期待できたためである。

5) 2012年度：本研究の最終年度で主に成果のとりまとめと次の研究につなげるための1年であった。11月に北ヨーロッパ学会で研究報告を行い、また3月にはイギリスのサセックス大学、ダラム大学を訪問し、今後、介護の国際比較研究の展開の可能性を検討した。

4. 研究成果

本研究では、次項に示す論文、著書、学会発表等で、研究成果を部分的に報告している。また今後、複数の書籍の出版を企画している。

1) フィールド調査から

おおまかにみると、北欧諸国の介護サービス供給は都市部を中心に多元化が進んでおり、従来から北欧モデルとされてきた自治体コミュニティによる供給独占はみられない。ただし多元化、市場化の進み具合は国によって異なり、また同じ国内でも自治体により異なっている。保守政権が続くスウェーデンでは市場化が最も進み、最も早くサービスの選択自由化制度を法制化したデンマークでは進行はスウェーデンに比べてゆるやかである。また同じ国内でも自治体の政策選択によりシステムの多様化が進んでいる。同じ北欧諸国の中でもノルウェー北部では民間事業者の参入はほとんど見られず、また24時間体制のホームヘルプも町の中心部に限られる。

サービス供給の面では自治体ごとに多様であるが、税金を財源としていること、自治体の裁量が大きいこと、公的システムに対する信頼度が高い点は各国に共通している。

2) ホームヘルプ比較調査に向けた予備調査から

本研究では日本の調査は計画になかったが、Marta Szebehely 教授の提案と協力により、今回の調査につなげるための予備調査を実施することとなった。

調査では大阪府内の訪問介護事業者に勤務するホームヘルパー50名を対象とし、Marta Szebehely 教授らが2005年に北欧4カ国の介護職員を対象に実施したNord Care 調査で用いた質問票を日本語に翻訳して使用した。調査の結果では「利用者とのコミュニケーションを持つ時間が少ない」「同居家族の家事をするのはおかしい」「お手伝いさんと思われている」などの回答があった。属性では教育水準が高く、また（制度上の理由でもあるが）有資格者が多いという点は特徴的であった。今後、日本国内で大規模調査を実施することにより、北欧諸国と比べた際の日本の介護の特徴を把握できる可能性が明らかとなった。

3) 今後の高齢者介護の国際比較研究に向けて

この5年間を通じて、北欧諸国のみならず、北欧の介護研究者を通じて、イギリス、ドイ

ツ、カナダ、オーストラリアの介護研究者と研究交流を持つことができた。このことは日本の高齢者介護研究を新たな国際比較研究に展開させる可能性につながっている。そのために、このネットワークを大切にしながら、研究を続行する予定である。まずはNord Care 調査の日本版を実施し、その結果を分析することから始めることを考えている。Nord Care 調査は北欧諸国に始まったが、現在ではカナダ、オーストラリア、ドイツでも実施されており、日本の統計が加わることにより、よりユニークな分析が行われることになる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計25件)

- ① 久塚純一、「議事録から見る「介護保険制度」の10年(2)・・・どのように「説明」され「納得」したことになるのか?」、『介護研通信 と・と・と』、査読無、23号、2013、pp. 3-9.
- ② 斉藤弥生、「スウェーデンの社会保障制度における国と地方の関係―介護サービスにおける「サービス選択自由化法」の影響を中心に―」『海外社会保障研究』、国立社会保障・人口問題研究所、査読無、第180号 2012年秋号、2012、pp. 59-75.
- ③ 斉藤弥生、「スウェーデンにおける介護サービスの民営化と市場化に関する一考察―バウチャーシステムと家事労賃控除(RUT-avdrag)の導入をめぐる―」、『北ヨーロッパ研究』、北ヨーロッパ学会、査読有、第8巻、2012、pp. 23-38.
- ④ 岡沢憲美、「スウェーデンの社会保障：グローバル化経済の中で：苦悩と挑戦：北欧福祉社会のしなやかでタフな挑戦：巻頭言・特集の趣旨」『海外社会保障研究』、国立社会保障・人口問題研究所、査読無、第178号、2012、pp. 2-3 .
- ⑤ 久塚純一、「社会保障における「統合」と「分断」・・・「対立軸」か? 「ダブルスタンダード」か?」、『週刊社会保障』、査読無、2698号、2012、pp. 44-49.
- ⑥ 久塚純一、「議事録から見る「介護保険制度」の10年(1)・・・どのように「説明」され「納得」したことになるのか?」、『介護研通信 と・と・と』、査読無、22号、2012、pp. 2-7.
- ⑦ Nobu Ishiguro, Spidsen: Er valgfrihed altid oenskelig?, *Gerontologi*, referee paper, Nr.4, aargang 28, 2012, pp.16-17.
- ⑧ 吉岡洋子、「2000年以降のスウェーデン

- における高齢者福祉－「選択の自由」拡大とそれに伴う諸対応の展開－、『海外社会保障研究』 査読無、No. 178、2012、pp. 43-44.
- ⑨ 齊藤弥生、「世界の社会福祉－スウェーデンに学ぶ－」、『NHK テキスト社会福祉セミナー』、NHK 出版、査読無、2011年8月－11月号、2011、pp. 24-39.
- ⑩ 齊藤弥生、「スウェーデンにおける女性高齢者の所得保障：年金を中心に」、『海外社会保障研究』、国立社会保障・人口問題研究所、査読無、第175号 2011年夏号、2011、pp. 9-25.
- ⑪ 岡澤憲芙、江口隆弘、宮本十至子、柴由花、「税と社会保障の一体改革を語る」、『税研』、日本税制研究センター、査読無、Vol. 26 No. 6、2011、pp. 1-16.
- ⑫ 岡澤憲芙、「スウェーデンの事情について：デモクラシーの実験室」、『スウェーデン視察報告書』 国際女性教育振興会、査読無、2011、pp. 46-47.
- ⑬ 久塚純一、「現代社会の「孤立」と「連帯」」、『介護研通信 と・と・と』 査読無、21号、2011、pp. 2-7.
- ⑭ 久塚純一、「社会的責任」と「私的責任」、『地方自治ふくおか』、福岡県地方自治研究所、査読無、通巻52号、2011、pp. 3-9.
- ⑮ 久塚純一、「社会的な給付」という考え方の構造・・・「社会的な責任」と「私的責任」の相互関係」、『週刊社会保障』、法研、査読無、2644号、2011、pp. 44-49.
- ⑯ 吉岡洋子、「スウェーデンにおける社会福祉分野のNPOへの国庫補助金」、『北ヨーロッパ研究』、査読有、第7巻、2011、pp. 13-21.
- ⑰ 齊藤弥生、「24時間体制の在宅介護サービスをどう築けるのか－海外事例にみる介護の「供給エリア」－」、『生活協同組合研究』、公益財団法人生活協同組合総合研究所、査読無、2010、pp. 30-39.
- ⑱ 岡澤憲芙、「平和の伝統を礎に長期的なビジョンが導いた福祉社会」、『Opportunity Sweden』 Invest SWEDEN、査読無、Vol. 09 No. 032、2010.
- ⑲ 岡澤憲芙、「ライフスタイルの変容と政策対応：成長と福祉：実験国家スウェーデンの挑戦」、『ひょうご経済』、ひょうご経済研究所、査読無、No. 107、2010、pp. 2-9.
- ⑳ 岡澤憲芙、「北欧政治と年齢：[政界＝高齢者支配社会]への挑戦」、『都市問題研究』、東京市政調査会、査読無、Vol. 101、2010、pp. 28-35.
- 21 岡澤憲芙、「ライフスタイルの変容と制度の対応：高負担社会・スウェーデンの期日前投票制度の理念と構造」、『選挙』、都道府県選挙管理委員会連合会、査読無、2010、pp. 1-11.
- 22 久塚純一、「社会保険のありようから見える私たちの社会・・・「スタンダード無し」というスタンダード」の形成」、『週刊社会保障』、法研、査読無、2598号、2010、pp. 42-47.
- 23 久塚純一、「社会保険の「任意性/強制性」・・・対立軸の歴史的 position と構造」、『週刊社会保障』、法研、査読無、2540号、2009、pp. 46-51.
- 24 久塚純一、「社会保険における保険料・・・「私的権利に接合する義務」と「社会連帯的義務」」、『週刊社会保障』、法研、査読無、2501号、2008、pp. 58-63.
- 25 齊藤弥生、「スウェーデンにおける介護職員の労働条件向上へのアプローチ－連帯賃金政策とジェンダー平等からの戦略－」、『北ヨーロッパ研究』、北ヨーロッパ学会、査読有、第5巻、2008、pp. 1-15.

[学会発表] (計4件)

- ① 石黒暢、齊藤弥生、吉岡洋子、「日本とスウェーデンの高齢者介護比較研究－ボトムアップ視点からの検討」、北ヨーロッパ学会第11回研究大会(明治学院大学)、2012年11月10日.
- ② 吉岡洋子、「スウェーデンにおける福祉とNPOのアドボカシー役割に関する研究」、日本NPO学会第12回年次大会(立命館大学)、2010年3月14日.
- ③ 齊藤弥生、石黒暢、「北欧諸国間の介護システム比較研究(2)－ノルウェーの現地調査からの報告(ホームヘルプに焦点をあてて)－」、日本社会福祉学会第57回大会(法政大学)、2009年10月10日.
- ④ 齊藤弥生、「スウェーデンにおける介護職員の労働条件向上へのアプローチ」北ヨーロッパ学会第7回研究大会(早稲田大学)、2008年12月6日.

[図書] (計18件)

- ① 齊藤弥生、「介護サービスの供給と編成をめぐる論点－グローバル化、多元化、市場化のなかで－」一般社団法人日本社会福祉学会編『対論社会福祉学3 社会福祉運営』、中央法規出版、2012、pp. 118-143.

- ② 齊藤弥生、「第 13 章 福祉政策の国際比較 第 1 節 欧米の福祉政策」、後藤玲子、武川正吾、古川孝順編『新・社会福祉士養成講座 4 現代社会と福祉(第 3 版)』、中央法規出版、2012、pp. 290-307.
- ③ 岡本保、岡澤憲芙、上野千鶴子、「グローバル化時代の福祉：高負担社会スウェーデンの政策対応」、『福祉社会を考える』、地方行財政調査会、2012.
- ⑤ 岡澤憲芙、「高負担社会の選挙政治：これがスウェーデン流：巻頭言」、『Voter』、明るい選挙推進協会、No. 8、2012、pp. 2-3.
- ⑥ 久塚純一、「介護保険をめぐる基本課題・・・制度創設からの軌跡を手掛かりに」、日本社会保障法学会編『新・講座 社会保障法 2 地域生活を支える社会福祉』、法律文化社、2012、pp245-263.
- ⑦ 久塚純一、「福祉政策の構成要素Ⅱ」久塚純一・森田慎二郎・金川めぐみ『チャレンジ 現代社会と福祉・・・〈社会福祉原論〉を現場から学ぶ』、法律文化社、2012、pp143-145/pp153-156(全 246 ページ).
- ⑧ 田辺欧、『待ちのぞむ魂。スーデルグランの詩と生涯』、春秋社、2012、352P.
- ⑨ 齊藤弥生、「第 9 章 諸外国にみる高齢者福祉の新しい動向(うち第 1、3、4 節)」、黒田研二、清水弥生、佐瀬美恵子編『社会福祉ライブラリー③ 高齢者福祉概説(第 3 版)』、明石書店、2011、pp. 203-205、pp. 213-220、pp. 220-232.
- ⑩ 岡澤憲芙、堀江湛編、『現代政治学』(新版)、法学書院、2011、350P.
- ⑪ Yayoi Saito, Reiko Abe Auestad, Kari Waerness. *Meeting the Challenges of Elder Care: Japan and Norway*, Kyoto University Press and Trans Pacific Press, ix-xxi, 2010, pp.38-67, pp.104-127, pp.188-196.
- ⑫ 久塚純一、『比較福祉の方法』、成文堂、2011、295P.
- ⑬ 岡澤憲芙、小渕優子編『少子化政策の新しい挑戦』、中央法規出版、2010、320P.
- ⑭ Norio Okazawa, *Aiming towards Diversity Welfare in a Global Society, Meeting the Challenges of Elder Care: Japan and Norway*, Kyoto university Press and Trans Pacific Press, 2010, pp.136-156.
- ⑮ 齊藤弥生、「第 38 章 スウェーデン型福祉社会—すべての市民を対象とする「包括的福祉」」、村井誠人編『エリア・スタディーズ 75 スウェーデンを知るための 60 章』、明石書店、2009、pp. 250-255.
- ⑯ 齊藤弥生、「第 6 章 参加と方法 第 3 節 住民の代表制と参加方法」、社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座第 9 巻 地域福祉の理論と方法—地域福祉論』、中央法規出版、2009、pp. 164-171.
- ⑰ 齊藤弥生、「第 14 章 第 1 節 欧米の福祉政策」、社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座第 4 巻 現代社会と福祉—社会福祉原論』、中央法規出版株式会社、2009、pp. 288-301.
- ⑱ 久塚純一、「はじめに 福祉はどのように語られるか」、「オリエンテーション」、「「現物給付」なのか、それとも「償還制」なのか・・・日本の介護保険の姿」、「福祉を巡る普遍性と特殊性」久塚純一・石塚優・原清一『高齢者福祉を問う』、早稲田大学出版部、2009、pp5-14、pp21-23、pp75-90、pp240-248.
- ⑲ 久塚純一、「日本における「民間団体」の歴史的位罫・・・社会保障をめぐる「公」と「私」を素材として」、坪郷實/ゲジエネ・フォリアンティ=ヨースト・縣公一郎編『分権と自治体再構築…行政効率化市民参加』、法律文化社、2009、pp147-172.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山井(齊藤) 弥生(YAMANOI (SAITO) YAYOI)
大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授
研究者番号：40263347

(2) 研究分担者

岡澤 憲芙 (OKAZAWA NORIO)
早稲田大学・社会科学総合学術院・教授
研究者番号：60063773
久塚 純一 (HISATSUKA JUNICHI)
早稲田大学・社会科学総合学術院・教授
研究者番号：90037086
田辺 欧 (TANABE UTA)
大阪大学・世界言語研究センター・教授
研究者番号：60243276
石黒 暢 (ICHIGURO NOBU)
大阪大学・世界言語研究センター・准教授
研究者番号：20273740
吉岡 洋子 (YOSHIOKA YOKO)
頌栄短期大学・保育学部・准教授
研究者番号：80462018